

2009年12月2日

玄海 3 号機のプルサーマル通常 運転開始に対する抗議声明

九州電力株式会社

代表取締役社長 眞部利應 様

止めようプルサーマル・佐賀
プルサーマルと佐賀県の100年を考える会

地元玄海町民をはじめとして佐賀県民の多くが、福岡県、長崎県、そして日本中で多くの人々が、玄海プルサーマルに反対しています。このことをまず、肝に銘じてください。

次の理由からプルサーマルは実施する意味も意義もないと考えます。

1、事故の危険性

プルサーマルはプルトニウムを大量に使用するので制御棒の効きが悪くなるなどのために、チェルノブイリ原発のような大事故につながる危険性を大きくします。

さらに、プルトニウムは、ごく微量を吸い込んだだけで肺がんになるなど、猛毒です。

2、資源、リサイクル効果はない

プルサーマル用MOX燃料は、プルトニウムを取り出すための再処理で多大な資源とエネルギーを消費するため資源節約やリサイクルの効果はなく、その費用も莫大で経済性もありません。電気代も高くなります。

3、環境、健康被害

この再処理の過程で膨大な放射能を大気中と海中に放出して環境を悪化させます。

MOX燃料の製造時やプルサーマル発電時に作業者の被曝量は増大します。

さらに、使用済みMOX燃料の処分方法が確立できそうになく、佐賀県が「放射能のゴミ捨て場」になる恐れが大です。

4、耐震問題

地震が活動期に入った中で国の新指針による耐震審査が終了しないまま、安全余裕の低下するプルサーマルを行うべきではありません。

玄海用MOX燃料には、関西電力が使用を中止した不合格品が混じっている可能性のあることが明らかになっています。しかし、安全を確認する検査データの情報は企業秘密を口実に貴社から公開されず、国は不合格品が混じっていても国の検査に合格しているので問題はないとしています。この貴社の姿勢と国の判断を私たちは認めることはできません。

さらに、合格と判断した国のMOX燃料検査には具体的基準がないことが原子力安全・保安院との協議の場で明らかになりました。国が責任を持つ具体的な審査基準がなく、どうして客観的に安全と判断できるのでしょうか。プルサーマルは国の検査体制も十分に準備されないまま、無責任に進められようとしているのではないのでしょうか。このような状況で貴社は安全に責任が持てるのですか。

我が国の原子力政策は核燃料サイクルの中にプルサーマルを位置づけていますが、その中核である六ヶ所再処理工場も高速増殖炉「もんじゅ」も膨大な税金をつぎ込みながら、本格稼働の見通しは立っていません。プルサーマルを実施する意味はなくなっています。世界的に見てもプルサーマルは縮小、終了の方向です。

私たちは以上のようにプルサーマルの安全性が確認されず、使用済みMOX燃料の処理方法の見通しもないなかで九州電力株式会社がプルサーマルの通常運転に入ったことに強く抗議します。

連絡先

止めようプルサーマル・佐賀

杉野ちせ子 090-5740-1441

プルサーマルと佐賀県の100年を考える会

石丸 初美 090-6772-1137